（様式３－２）事後評価シート

農政部　　農地整備課

番号	9	事業名	県営畑地帯総合土地改良	市町村名	小諸市	路河川名	―	箇所名（ふりがな）	小諸御牧原（こもろみまきはら）

事業計画時の課題・背景及び事業経緯

本地区は、内陸性気候で年間降水量約900㎜、標高約700mの比較的緩やかな台地に位置する。
水源は天水のみで、昔から農業用水の確保に大変苦慮しており、農業用水を小規模なため池に依存しているため、常襲的な水不足となり、ため池も老朽化が著しく、維持管理に多大な労力を費やしている。
また、土壌が粘質土のため、農作物は水稲、ばれいしょなどに限られ、農業生産基盤が未整備であることに加え、近年では、農業者の高齢化や後継者不足のため、農地の遊休化がみられる。

事業目的

老朽化した36箇所のため池を1箇所の調整池に統合し、用水の安定供給を図るとともに、区画整理、畑地かんがい、農道整備を実施し、担い手の育成、農作業の効率化及び果樹等高収益作物の導入を図る。

事業概要

当初工期	H10～H14	費用対効果（当初時）	1.22	事業費（千円）	財源内訳（千円）			
最終工期	H10～H25	費用対効果（評価時）	1.10	上段：当初／下段：最終 （　）は国補事業分で内数	国庫	その他	県債	一般財源
当初計画内容（主な工種）	区画整理 A=43ha 畑地かんがい施設 A=31ha 調整池 N=1か所			1,510,000	755,000	339,750	373,000	42,250
最終事業実績（主な工種）	区画整理 A=46ha 畑地かんがい施設 A=31ha 調整池 N=1か所			2,190,000	1,095,000	492,750	542,000	60,250

事業期間の延長、短縮理由と分析

① 計画時の要望額に対して、年度毎の予算割当が少なかった。
② 区画整理において、湧水の発生等があり、湧水処理工法の検討及び対策に長期間を要した。
③ 調整池の安全性について、下流住民から不安の意見があり、合意を得るために長期間（6年間）を要した。

事業費（予算）の増加、縮減理由と分析

① 区画整理工事の湧水処理工等、調整池の安全性向上のための遮水工・張ブロック工による増額
② 調整池の放水路について、地域住民との合意形成の結果、ルート変更し、安全性を向上させたことによる増額

①事業効果の発現状況

事業効果の発現状況（A：目的を超えた達成　B：達成した　C：概ね達成）	評価
直接的効果（定量的・定性的） ① 区画整理工事を実施したほ場と幹線農道の舗装により、大型機械が導入され、効率的な営農が可能となった。 ② 農道整備により農地へのアクセスが容易になった。 ③ ため池の統合により、用水の安定供給が可能になり、水管理労力が大幅に軽減した。 ④ 受益地への送水はすべて管水路とし、「自動給水栓」を設置したことで、用水管理の省力化と効率的な利用が図られた。 ⑤ 担い手農家の経営面積の増加が図られた。（担い手への農地集積率 37% → 81%） ⑥ 事業実施前は、作物は水稲、ばれいしょ等に限られていたが、基盤整備により農業用水が安定し、果樹（りんご、ぶどう等）の栽培が拡大した。（現在 10.6ha）	A
間接的効果（定量的・定性的）※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況 ① 地元畑作振興組合が、菜の花、そば等を栽培し、菜の花は菜種油に加工され、販売している。 ② 農道の新設・改良区間は、周辺住民の生活道路にも利用され、利便性が向上した。 ③ 統合された調整池は、御牧原台地上にあることから、眺望が素晴らしく、アニメ映画「あの夏で待ってる」のシーンに使われるなど、観光資源にもなっている。	

②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化

事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化（A：環境がよくなった　B：大きな影響なし　C：影響が大きい）	評価
既存のため池周辺の在来種植物については、新たな調整池や付近のため池に移植し、環境への影響を軽減した。	B

③施設の維持管理状況

施設の維持管理状況（A：地域の人たちの参加あり　B：適切　C：やや不十分　D：不適切）	評価
調整池は小諸市が、水路は維持管理組織「畑総地域資源保全会」が良好に管理している。	A

④地域住民等の評価

地域住民等の評価（A：評価が高い　B：中程度の評価　C：評価が低い）	評価
① 36箇所のため池を1箇所の調整池に統合した結果、水管理の労力が軽減した。 ② 区画整理、畑地かんがい施設の整備により、農地の管理がしやすくなった。 ③ かつては耕作放棄地が散見されたが、解消された。 ④ 畑地では、りんご5haの作付けが計画されたが、現在は、りんご9.3ha、ぶどう1.3haと計画以上に作付けされ、事業効果があった。 （畑総地域資源保全会から聞き取り）	A

改善措置の必要性

特になし

今後の取り組み及び同種事業への活用と課題

① 事業実施に当たっては、受益者や周辺住民への理解を十分に得ることが重要であり、関係機関と連携して事業推進を図る。

② 完成後のため池を適切に管理していくためには、事業実施前から管理体制の構築が必要。

③ 畦畔法面の草刈り作業は、重労働で危険も伴うため、安全で生産コストの低減を図るため、無線操縦技術の導入や、自動制御の除草機械が走行し易い畦畔の形状等の検討が必要。

④ りんごやぶどうなど高収益作物の導入を踏まえ、かんがい施設や作業機械の安全性を確保できる勾配などの基盤整備が必要。

農政部公共事業評価委員会の意見

基盤整備により、用水が安定的に供給されるとともに、農作業の効率化、維持管理労力の軽減が図られ、りんごの新わい化栽培に取り組むなど果樹栽培が拡大されている。総合評価Aが妥当と判断する。

総合評価	A
県の評価案	妥当

長野県公共事業評価委員会の意見

農政部公共事業評価委員会の意見が妥当であると判断する。

評価監視委員会意見	妥当
評価の決定	A